



げんげんどう

特集 当院における
腎移植の実際について

2024.1 No. 97

- ① 呼吸器内科部長 野口医師の油絵 -冬のロングフェロー橋-
- ② 病院長挨拶
- ③ 日本在宅血液透析学会 病院研究発表会 千葉県透析研究会 日本腎不全看護学会に参加して
- ④ 当院における腎移植の実際
- ⑤ 腎移植における手術室看護 外来看護
- ⑥ 部署紹介 3A 病棟 げんげんどうかがやき保育所のクリスマス会開催
- ⑦ 急変対応指導者セミナー開催 フットケア学会に参加して
- ⑧ 外来での栄養指導について



表紙の絵：呼吸器内科部長 野口医師が描いた油絵です。米国ボストンの中心部を流れるチャールズ川にかかるロングフェロー橋は1700年代後半に造られました。橋のなかを市民の脚であるTと呼ばれる地下鉄が走っており、橋の中央にそびえる塔の形から「Salt Pepper Bridge」とも呼ばれボストン市民から愛されています。チャールズ川は冬の寒い日には一面が凍り付くこともありますが、周辺には公園や数々のスポーツ施設も広がり、ヨット、カヌー、ジョギングなど一年を通して市民や学生たちの憩いの場になっています。



新年の ご挨拶

新年あけまして
おめでとうございます。

医療法人新都市医療研究会「君津」会 理事長
玄々堂君津病院 院長 **池田 重雄**



4年前から蔓延するコロナウイルス感染症も昨年からは、新規の薬剤、治療プロトコルの開発により、治療可能な感染症となりました。勿論冬のこの時期には、インフルエンザ感染症と共に予防には注意を払う必要があります、当院外来、入院での皆様方の診療にも、今年も万全の注意をもって取り組みたいと考えております。

玄々堂君津病院医局では、昨年新しい先生を迎えることができました。消化器内科には西尾先生（現在は産休中です）、腎臓内科に根本先生、長原先生と三人の専門医の先生に加わっていただきました。消化器内科では内視鏡検査が充実しました。腎臓内科のお二人に参り加いただき、腎臓疾患、透析診療にさらに厚みがつきました。また本年4月からは、整形外科に昭和大学整形外科教室より新しい先生を招聘することができました。これにより今まで常

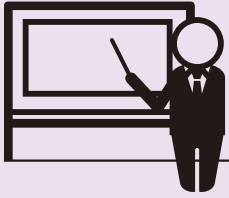
勤医師一人で頑張っていただいていた助崎部長のチームに加わっていただくことができました。今まで以上に充実した整形外科診療を皆様に提供できることを期待しております。当地域での診療ではまだまだ足りない診療科がありますが、少しずつでも参加していただける医師メンバーを増やしていきたいと考えております。

昨年、君津病院グループ内の木更津クリニックは、木更津市中里地区への新築移転が完了しました。新しい木更津クリニックでは、以前からある透析患者さんのためのクリニックに加えて、近隣の方の内科、外科疾患のための診療所としての機能を追加しました。また建物の2・3階には、高齢者の方のためのサービス付高齢者住宅、そして4階には、地域の高齢の方々がいままでお元気で活躍していただけするための通所リハビリ施設を備えておりま

す。すべての施設は昨年10月から運用を始めております。当法人グループには、木更津地域の方々にはお近くで利用いただける医療、介護施設が今までありませんでした。今後はお気軽にご利用いただければ嬉しく思います。新しい木更津クリニックに来院される皆様にお会いできることを職員一同、楽しみにしております。

当法人は、一昨年には設立50周年を迎えることができました。その際には地域の皆様と共に記念式典を行うことができました。これもひとえに地域の皆様のおかげでのご支援の賜物であり、法人の代表として、心より御礼申し上げます。

当院の理念は設立以来変わっておりません。君津市、木更津市、富津市地域の皆様へ良質な医療、介護サービスを提供できますように、職員一同努力して参ります。本年もこれまでと変わらぬいご支援を賜りますように、どうかお願い申し上げます。



日本在宅血液透析学会 病院研究発表会 千葉県透析研究会 日本腎不全看護学会

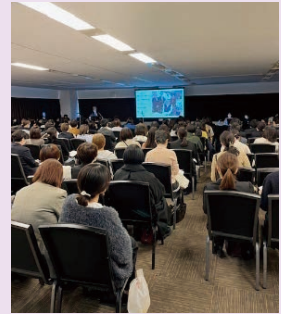
に参加して

第25回

日本在宅血液透析学会に参加して

臨床工学科副技士長 高橋初

在宅血液透析は、透析施設で行われている血液透析を自宅で行います。自宅で治療するため、開始時間は任意となり生活に合わせて治療ができます。一方自身で治療するため、透析の手法を身に付けなければなりません。そのため日本全体の患者数も750名程度にとどまっております。



ワークショップ会場

学会は2023年11月4日・5日に開催されました。当院から5名参加し、私は教育講演、臨床工学技士の高根、大子、松本が発表をしました。この学会の特徴として、透析患者さんも参加でき、忌憚ない意見を聞くことができます。患者さんが参加するワークショップを木村看護部長が運営しました。その中で介助者の役割について議論がされました。

ほかにも在宅血液透析を推進していくため、様々な角度からの方策が発表されました。大きな課題として治療の安全性向上があげられます。達成には、モニタリング機器や遠隔監視システムの活用、介助者の支援、装置の簡便化について具体的な方策の必要性を感じました。

一番印象的だったのは20年ぶりに学生時代の仲間に出会ったことです。仲間の透析施設で在宅血液透析を開始するため、私の教育講演

を参考にするそつです。今後更なる普及に向けて、活動を進めてまいります。

第50回 千葉県透析研究会に参加して

リハビリテーション科 三瓶 智哉

12月3日に第50回千葉県透析研究会が幕張メッセ国際会議場で開催されました。当院リハビリテーション科からは、佐藤理学療法士の「外来透析患者の骨粗鬆症の有無と身体能力、ADL動作の検討」と私の「透析中セラバンド・EXが透析中血圧に与える影響」の2演題を発表させて頂きました。透析患者さんの身体機能低下は様々な場面で問題視されており、リハビリ職としてどのように透析患者さんに関わっていくかは課題となっていました。

学会参加を通じて他職種からの様々な意見を得ることができ、改めて他職種連携の重要性を感じました。透析患者さんの生活の質を高めるためにも、今回の研究で得られた知見を今後の診療に活用していきたいと思えます。



幕張メッセ国際会議場にて

第24回 病院研究発表会開催

栄養科主任 荻野 悟

11月9日に第24回病院研究発表会が開催されました。感染予防の観点から、大会議室とオンラインのハイブリッドでの開催となりました。

した。

一般演題は6演題あり、看護部から2題、リハビリテーション科から2題、臨床工学科から2題の発表がありました。それぞれの演題に専門性があり、独自の視点で研究された発表でした。

また、指定講演では呼吸器内科部長の野口昌幸先生より「咳について」という演題で講演いただきました。咳は風邪症状の一つとしてしか認識できていませんでしたが、仕組み、分類、治療方法などを教えていただき、改めて考え直すきっかけとなりました。コロナ禍で学会に参加する機会が減ってしまったため、とても有意義な時間となりました。

第26回

日本腎不全看護学会に参加して

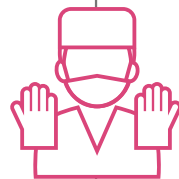
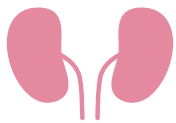
看護部長 木村 純子

11月18日に第26回日本腎不全看護学会に参加してきました。当院から玄々堂木更津クリニックの山田木綿子看護師主任が「終末期における外来血液透析患者の意思決定支援を考えた」と題して発表しました。様々な透析施設の新たな取り組みを学びました。在宅血液透析の看護ワーキンググループでは「みんなが知って広げよう！在宅血液透析」というテーマで意見交換することができました。



仙台での学会に行ってきました！

当院における 腎移植の実際



移植腎臓外科部長 工藤 真司

当院における腎移植の実際

04 げんげんどう

当院は腎臓病診療に力を注いでおり、なかでも血液透析、腹膜透析、腎移植、在宅透析といった腎臓の働きが末期状態となった患者に対する治療法のすべてが選択できる全国的にも数少ない病院のひとつです。今回は、腎臓の機能をほぼ完全に回復できる唯一の治療法である腎移植についてお話しします。

『腎移植の現状』

腎移植は大学病院をはじめとする高次医療機関で行われると思いませんか？実は当院でも毎年2〜3例の腎移植が行われ、患者さんは元気に社会復帰しています。たしかに20年前は大学病院で行われる治療法でした。その後の新たな免疫抑制薬の登場や医療技術の進歩により、2000年以降の治療成績は大幅に改善しました。急性期管理が安定しこれ以上改善するところも少なくなり、ここ10年の治療成績にいたっては大きな変化はありません。腎移植は特別な治療から標準的な治療になり、当院のようにけっして大きな病院でなくても可能になったのです。

研修医の頃は急性拒絶反応や、聞いたこともない感染症が発症し治療に四

苦八苦しましたが、現在はそのようなことはほぼありません。当院では院内外の強力なバックアップもあり、患者さんに満足されるような安全・安心の腎移植を提供しています。心筋梗塞等の併存症を有する方や重度な拒絶反応のリスクのある移植希望の方は、多数のエキスパートのいる高度医療機関にご紹介させていただく場合もあります。

『生体腎移植の流れ』

当院での生体腎移植の流れですが、初回外来において血液検査で組織適合検査、拒絶反応の起こりやすさを推測するクロスマッチ検査を行います。問題なければ画像検査や循環器内科や心療内科といった他科受診を行い、手術が安全に施行できること、術後にドナー(臓器を提供する側)やレシピエント(提供される側)に大きな不利益が及ばないことを確認します。手術は入院して行います。ドナーは手術2日前から入院し術後

1週間で退院、レシピエントは手術1週間前から入院し術後約2〜4週間で退院となります。移植後早期(術後3〜4か月)は拒絶反応や感染症のリスクがあるため、1〜2週間に1回の外来となりますが、安定すれば1〜2か月に1回の外来となります。詳しくは病院または小生の外来にきていただけたら他の治療法と併せてご説明します。お気軽にお越しください。



腎移植における手術室看護

手術室看護師主任 岡部 貴子

思いやりとチームワークを

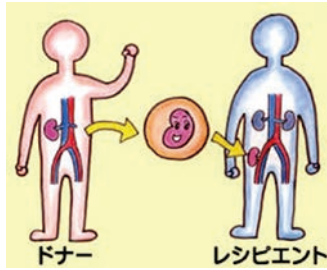
大切にしています



当院では、

生体腎移植を
行っています。

腎移植は腎臓
提供者(ドナー)
と受ける側(レ
シピエント)の
手術を同時に行います。



手術室看護師は、病院内の腎移植

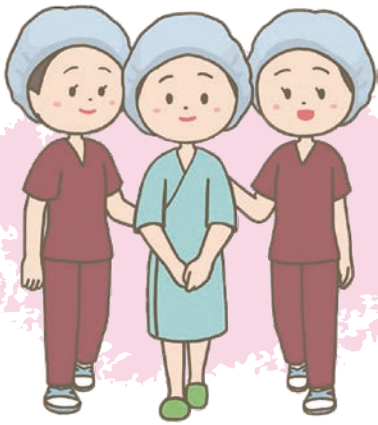
チームの一員として、健康人であるド
ナーを含め安全性はもちろんのこ
と、家族間での心理的・社会的な面
にも配慮し、多職種間の手術前カンファ
レンスに参加し、術前から手術終了ま
で関わっています。

手術は、ドナー・提供された腎臓の
処置・レシピエントの手術を行き来で
きる3室に分かれて行います。それぞ
れの担当医師・看護師・臨床工学技士
がチームワークを発揮するだけな

く、3室が連携して手術を行っていま
す。

ドナーから提供された腎臓が、レシ
ピエントの血管に繋がった後に血液が
流れることでピンク色に変わり、初尿
が出る瞬間は毎回感動します。

腎移植と聞くと、不安や心配なこと
もあると思いますが、いつでも腎臓病
コーディネーターに相談してください。



腎移植における外来看護

外来看護師 鳥海 明子

腎移植は

ゴールではなくスタートです



移植外来は、腎移植を受けるレシピ
エントと腎臓を提供するドナーに対し
て、移植前の相談から移植までの準
備、移植後のフォローを行っています。
す。

移植前は、腎移植の説明を充分に行
い、クロスマッチ検査や移植手術に必
要な検査を施行し、万全な状態で移植
できるように対応しています。患者さ
んとコミュニケーションをとり、精神
面でのフォローも大切にしています。

移植後は、レシピエントに対し、腎
機能の経過や免疫抑制剤の内服の確認
など、患者さんの現状を把握し、一人
一人に合わせた関わりを心がけていま
す。またドナーに対しては、一つに
なった腎臓を大切にしていけるように
サポートしていきます。

腎移植はゴールではなくスタートだ
と私は思います。

レシピエント・ドナー共に移植後の
状態が長く維持できるように、また
『移植してよかった』と思えるよう
に、今後も関わりたいと思います。
腎移植について興味のある方、外来
でお待ちしております。



3A 病棟の 紹介

3A病棟 看護師長
加藤 久美子

「Oさんの検査後どう?」「どこまでできた?私にできることある?」「処置は私が付くから、先に検温回っていいよ。」今日も内科病棟には、いろんな声かけが行き交います。

3A病棟は「やさしい看護」と「チームワーク」が



急性期内科看護は 私たちにまかせて♡

強みです。11時・15時になると、「シェアタイムだよ」と呼び声がかかり、スケジュールボードの前に日替わりリーダー3人が集合します。ほんの3分程度のこの時間で、気になる患者さんの状態や業務の進捗状況を情報共有します。ペースの異なる急性期・慢性期のケアを効果的に行うには、このシェアタイムのしくみと共に、個々が役割を意識して、その時自分にできる最大のことを、お互いを気遣い合って進めていくことが大事なポイントです。こういったチームナースングの良さが1人1人に根付いているところが3A病棟の自慢です。スタッフステーションの前を通ったら、是非大きなスケジュールボードを眺めてみてくださいね。

3Aの新人看護師



3A病棟看護師
山田 菜々子

新人看護師として3A病棟に配属されて、10カ月が経過しました。3A病棟はメンバー間でのコミュニ

ケーションが盛んで、明るく温かい職場です。検査出しや、処置の介助など様々な業務で忙しい日々ですが、先輩方は優しく、時に厳しくご指導くださいます。そのお陰で、少しずつ成長できていると感じています。患者さんへより良い看護の提供ができるように、今後も3Aメンバーと共に頑張っていきたいです。

げんげんどうかがやき保育所のクリスマス

12月25日げんげんどうかがやき保育所ではクリスマス会が行われました。サンタチーム・トナカイチームに分かれ、「プレゼントリレー」「ダンボールツリーゲーム」で盛り上がった後は、ヒゲダンスです。子ども達のヒゲマスク姿にみんな大笑いしながら楽しんでいました。そして…おまちかね、サンタさんの登場です! 子ども達の瞳はもうキラキラ☆1人ずつ名前を呼んでもらい、嬉しそうにプレゼントを受け取っていました。お礼に「あわてんぼうのサンタクロース」を元気に歌うと、サンタさんもとっても喜んでくれ、みんなの笑顔あふれる素敵なクリスマス会になりました。サンタさん、ありがとう♡ 来年もまた来てね!



サンタさん
ありがとう♪
来年も又来てね
(^-^)



今年度看護部では急変対応指導者セミナーを企画しました。急変時リーダーを指揮するスタッフ、救急研修や部署での学習会で指導的立場の方が急変対応に不安がないよう最新のガイドラインに沿って学習し、蘇生手技について根拠、意図を理解することで現場の指導に活かせるような内容です。講師は株式会社 日本医療向上研究所 代表取締役/医師、貞広智仁先生にお願いしました。実際の心肺蘇生訓練では、刻々と変わる病状の変化に合わせて参加者全員



が声を出し、体を動かしながら真剣に取り組みました。絶え間ない胸骨圧迫(心臓マッサージ)、AED操作方法、人工呼吸法について学び、訓練の後は講師から分かりやすくフィードバックして頂いたため学びが更に深まりました。

急変対応は日頃の訓練や、チームで連携をスムーズにすることが求められます。そして何よりも患者さんを救いたいという気持ちが大切であり、“いざという時に自信を持って急変対応が行えるよう”これからも心肺蘇生訓練を続けていきます!



研修目的：救急指導に携わるスタッフに心肺停止状態を救命するために必要な成人の救命処置についての根拠を学び、現場での指導やリーダーシップに活かす

研修目標：①気道、呼吸、循環、意識の確認 バックバルブマスクによる補助換気を理解し実施できる

②心肺蘇生の流れとそれぞれの手技の背景について理解し、実施できる

③症例を用いながら急変シミュレーションを体験する

研修日時：12月23日(土) 13:30~16:30

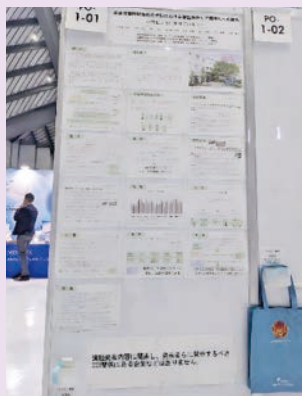


第4回日本フットケア・足病医学会年次学術集会へ参加して

2階病棟看護師 永井 妙子

今回、看護研究で取り組んだ『術後深部静脈血栓症(DVT) 予防における弾性包帯ケア標準化への試み』をフットケア・足病医学会に参加して発表してきました。学会では、様々な発表や講演があり、多くの刺激を受けてきました。

その中の1つに「フットハイジーンを習慣に」というフットケア用の足の歯ブラシの講演がありました。ハイジーンという言葉は「健康を保つために身体の衛生を保つ生活習慣」という意味があり、最も身近なハイジーンは歯磨き(オーラルハイジーン)です。今は歯磨きをするのは当たり前になっていると思います。それは生きる為に食事をすることは必要で、楽しみでもあるからこそ歯を大切にしていると思います。足も同じく、歩行ができないと筋力低下や生活範囲も狭くなり、自立した生活が難しくなります。いつまでも自分の足で歩く為に、足を大切にケアしていく必要があります。学会でも「創傷衛生(Wound Hygiene)」が注目されており、改めて保清の大切さを学びました。まずは自分の足を守る為に綺麗にするところからフットケアに興味を持ってもらえるように、フットケア指導士としてこれからの看護に活かしていきたいと思っています。



ポスターセッションでの発表でした



フットケアチームで沖縄に行ってきました

外来での栄養指導について

栄養科管理栄養士 長谷川 みずほ

私たち管理栄養士は外来にて糖尿病、腎臓病を中心に栄養指導を行っています。その他にも透析室、玄々堂木更津クリニックに加え、特定保健指導など様々な場面で皆さんの食事サポートをしています。また食事指導だけでなく、主治医の指示のもと体組成計を用い、体脂肪や筋肉



体組成計

量、水分量など体の組成を見ながら、個人に合わせた改善策を提案しています。

実際に「データを改善したい」「体重を減らしたい」と前向きに取り組まれる患者さんも多く見受けられます。しかし、極端な食事制限をするとうつや同時筋肉量が落ち、運動・代謝・免疫などの機能が低下し、様々な疾患へ繋がるリスクが高くなってしまいます。さらには食事療法が長続きしない原因にもなるのではないのでしょうか。

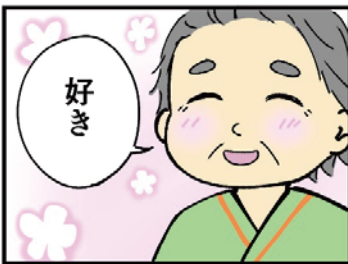
そこでただ単に食事制限をするのではなく、栄養バランスについて一から知

ていただき、偏りなく食事療法が継続できるように「ダイエットプログラム」というものを一部の方に活用しています。このプログラムは「①食生活 ②食事バランス・主食③主菜④副菜⑤塩分⑥外食・中食」の流れで各項目の摂り方について説明を行い、必要な知識を身につけていただける内容となっています。

その他にも多くの方に情報をお伝えできるよう毎月、糖尿病栄養だより(2024年1月で108回目)、施設と連携し透析栄養だより(2024年1月で129回目)を発行しています。1階栄養相談室に置いてありますので、気になる方は是非手に取っていただくと嬉しいです。



げんげん 日和



作: まつ



栄養だより

玄々堂君津病院 各お問い合わせ番号 月曜日～土曜日(祝日は除く)

玄々堂君津病院
0439-52-2366
代表

外来診療予約
0439-52-7068
診療予約・予約変更

地域連携室
0439-52-2457
医療機関からの患者さんのご紹介

玄々堂木更津クリニック
0438-53-7807
代表



玄々堂グループ広報誌

げんげんどう

第97号 2024年1月25日発行

発行者: 玄々堂君津病院
発行責任者: 院長 池田重雄
企画・編集: 新聞委員会

医療法人 新都市医療研究会「君津」会

玄々堂君津病院

〒299-1144 千葉県君津市東坂田4-7-20

電話 0439-52-2366(代表)

URL <http://www.gengendo.jp>

